

(八代清流) 高等学校 令和元年度 (2019 年度) 学校評価表

<p>1 学校教育目標</p> <p>生徒の無限の可能性を引き出すのは我々教師であり、妥協することなく徹底した指導を根気よく続けることが大事である。高校生活3年間で人生の最も基礎・基本となることを我々教師は知っている。生徒一人ひとりの財産づくりを支援していくことに全力を挙げ、次に示す人間の育成を目指す。</p> <p>(1) 豊かな人間性をもち、「自律」した判断・行動ができる次代を担う人間 (2) 目標を高く掲げ、常に「進取」の気概をもって挑戦し、創造への意欲を燃やす人間 (3) 文武両道を目指し、心身を「錬磨」することにより、活力に満ちた逞しい人間</p>

<p>2 本年度の重点目標</p> <p>(1) 豊かな心の涵養と健やかな身体の育成 (2) 確かな学力の育成と進路指導の充実 (3) 「認め、ほめ、励まし、伸ばす」教育の実践 (4) 保護者及び地域との連携</p>
--

A : 十分達成できている B : おおむね達成できている C : やや不十分である D : 不十分である

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	今後の学校経営の方向性の具体化	高大接続改革プロジェクトチームによる提言と実践	大学入試改革、次期学習指導要領改訂に対応できる組織作りと「1 Step 1 Up」を取り入れた全職員による授業実践の工夫改善。	プロジェクトメンバーによる提言と研修を行い、カリキュラム・マネジメントの研究と、生徒が、「主体的に学び、対話で深める」授業づくりに全職員で取り組む。	B	高大接続改革プロジェクトチームにおいて、リーダーを中心に全職員への研修会を実施した。スクールアイデンティティや「生徒につけさせたい力」を職員それぞれが確認し、授業改革への方策を考える機会とした。また、教育課程や評価のあり方等について研修し、新学習指導要領や高大接続改革への理解を深めるとともに組織的対応を検討することができた。
	安全・安心な学校づくり	生徒一人一人を大切に、生徒に寄り添った教育活動の実践	生徒同士の相互理解や教職員との信頼関係を深める。	教職員が生徒と向き合える時間を確保できるよう工夫する。	B	毎日行っていた職員朝会の全体会を週二回とし、担任・副担任が朝から生徒と向き合えるよう時間を確保した。また、年度当初に「生徒交流会」と称し遠足を行い、新クラスでの交流を行った。言語環境を整えるなど、生徒に対して丁寧な対応を普段から心掛けるなど、信頼関係構築への取組みを実践した。

		安全管理の徹底と整備	日常に潜む危険箇所の把握と早期対応。	安全点検を年に2回実施し、危険箇所の発見、周知、改善を行う。	B	安全点検を2回実施し、迅速に改善することができた。予算の関係で対応できなかった箇所に関しては、予算主管課に相談する等、改善に向けて段階的に準備している。
		危機管理意識の向上	危機管理マニュアルで意識の共有を図り、職員の危機管理能力と生徒の危機回避能力を育成する。	実践的な防火防災訓練の実施と改善、生徒への緊急対応の周知徹底を図る。	B	地震と火災による避難訓練をそれぞれ実施し、有事の際にとるべき行動の周知徹底を行った。雨で体育館への避難となったが、緊張感をもって参加することが課題である。今後も防災に対する意識の高揚と危機管理能力の育成を図りたい。
	八代清流高校の評価向上	八代清流高校の魅力発信	PR方法の工夫及び本校の取組の周知。	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校に担当者をつけ連携を強化する ・HPの即時更新 ・安心安全メールの有効活用 	B	中学校ごとに担当職員担当を割りあて、定期的な中学校訪問を実施した。出身生徒の情報も提供することで中学校との連携を深めた。HPの更新回数は、1月末現在で74回であった。安心安全メールについては権限を分散することで即時配信につなげることができた。
		進学重視型単位制の周知	進学重視型単位制の特徴やメリットをPRする。	まず職員が単位制や本校のシステムを理解することに努め、その魅力を発信する。	B	新しい教育課程の完成年度であったため、選択科目が増え、半期認定科目も多くなった。的確な選択ができるよう、面談や集会等でガイダンスブックや配布プリントを工夫して周知を行った。今後は外部に対して、単位制のメリットや魅力を効果的に発信していくことが課題である。
学力向上	わかる授業の推進	職員の授業力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・授業評価システムの再構築と授業力向上を目指した公開（研究）授業の実践 ・授業力向上を目指した職員研修の機会の設定と実践 	「1Step1Up」を意識した授業改善を行い、「主体的に学び対話で深める」具体的な取組みを行う。グループ研修や研究授業の実践を計画的に行う。	B	5月に「お気軽授業見学週間」として、職員間で授業を自由に見学できる期間を設定した。6月には「授業研修週間」を設け、グループ内での授業見学と授業研究会を実施した。後期には夏休み前に実施した「授業評価アンケート」の結果をもとに、各自の授業改善を目指し、全職員が指導案を作成し、研究授業を行った。

	自学自習できる生徒の育成	生徒の自主的な家庭学習への取組	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の家庭学習時間を増やすための工夫と、家庭学習のやり方の指導 予習・復習の徹底と家庭学習時間の把握と活用 	<ul style="list-style-type: none"> 年3回の家庭学習時間調査結果をもとに各教科で家庭学習習慣の定着のための方策を検討する 面談週間や家庭訪問等で、学習の仕方をアドバイスする 	C	4月に全年次で予習のための生徒ガイダンスを行った。特に、国語・数学・英語については生徒への予習を求めると共に、予習が生きる授業の取り組みを行った。Sノートを用いて日々の家庭学習状況を把握するとともに、7月にWebアンケートによる一斉家庭学習時間調査を行った。
キャリア教育(進路指導)	進路意識の高揚	生徒の進路選択に関する意識の向上と積極的な取組	明確な進路目標を掲げ、その達成に向け校内外での諸活動に積極的に行動できる生徒を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> 年6回の面談 進路ガイダンスの充実 LHRや総合的な探究の時間を活用した進路学習の実施 総合的な探究の時間「プロメ・プラン」による各個人の興味関心を深める探究活動の実施 	B	<ul style="list-style-type: none"> 全員面談は年2回(家庭訪問/三者面談、単位制面談を除く)平常時の面談の充実が求められる。 各年次で進路ガイダンスを実施。大学との連携も今後は検討したい。 進路学習にほぼ時間を割けない現状で、進路指導の充実をいかに図るかが今後の課題である。 地域や大学との連携を図った探究活動の充実化がより求められる。
		高等教育機関の理解の深化と職業観・勤労観の育成	より高度な学問の修習やスキル獲得を目指すため、大学進学を希望する生徒を増加させる。	<ul style="list-style-type: none"> 高大連携出張講座、大学訪問、大学説明会、進路講演会の実施 キャリアプランニング活動(インターンシップおよび大学公開講座への参加) 	B	<ul style="list-style-type: none"> 9大学での出張講座、2年次生の福岡2大学への大学訪問、各年次2回進路講演会を実施。より効果的な方策を検討する必要がある。 2年次生全員がインターハイ動員も含め、長期休業日を利用しキャリアプランニング活動に取り組んだ。
	進路実現を支援できる環境の整備	生徒の進路希望および学力等の的確な把握と学力向上	進路希望調査や模擬試験結果の有効活用と課外授業の充実。	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な進路希望調査の実施と職員間での積極的な情報の共有 課外授業(3年次)の実施による学力の向上 模擬試験結果の分析会の実施と改善への具体的方策の実践 	B	<ul style="list-style-type: none"> 4・9・12月に調査および分析、情報共有をおこない、進路面談の充実を図った。 1科目前期12時間、後期16時間の課外授業、6時間の土曜課外を実施。実践力向上につなげた。 模試分析は資料の共有ができた。戦略的な進路指導の構築には課題が残る。
		コミュニケーション能力等の育成	小論文指導や面接指導の充実。	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な探究の時間や朝学習を活用した小論文学習 全職員で小論文、面接、グループディスカッション等を指導する 口頭試問の個人指導 	B	<ul style="list-style-type: none"> 各年次で計画的に小論文指導を行い、基本事項の習得を図った。朝学習と連携し、読解力や記述力向上にも取り組んだ。 全教職員で3年次生の特にAOや推薦受験の指導に取り組んだ。個人での指導経験歴に頼る部分が大きく、今後の指導の継続性に課題が残る。

		進路指導力の向上	生徒の進路相談に対し、進路関連資料を活用し、的確な資料の提示や助言ができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・複数回の進路面談の実施と記録の継続的活用 ・進路検討会の実施 ・学校説明会への計画的な参加と情報の共有 ・進路指導関連情報の積極的発信 ・年次連絡会等で情報伝達の機会の確保 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・面談記録の十分な活用ができていない点は今後の課題である。 ・進路検討会を基に学習習慣の充実と進路目標達成への取組を教務や年次間で連携し、生徒の成長を図ることが今後の課題である。 ・大学説明会への戦略的参加とレポート回覧による情報共有ができた。来客対応の分散化で、より多くの職員が情報を直接取得していくことが今後の課題である。
生徒指導	生徒の自律心と自尊感情の育成	自ら判断し、行動できる生徒の育成	生徒会活動の充実。	・学校行事では生徒が主体的に企画運営に協力して取り組む。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事（体育大会・文化祭）の充実。悪天候の中でも検討を重ね、体育大会の実施ができた。 ・世界ハンドボール大会の観戦を実施し、地域より高い評価を得た。
		基本的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・時間の厳守 ・挨拶の励行 	<ul style="list-style-type: none"> ・Sノートでのスケジュール管理、5分前行動の指導 ・語先後礼の徹底 ・挨拶運動の充実 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・Sノートを使用することで、個人スケジュールの管理ができていた。 ・自ら挨拶をする生徒が増えてきたが、遅刻者への対応が課題である。
	明るく楽しい学校づくり	問題行動やいじめのない学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・特別指導を0にする ・生徒間交流の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との情報共有に努める ・生徒交流会の実施 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・特別指導は0件であった。 ・生徒交流会を実施し、年度初めの生徒間の交流がスムーズにいった。
	交通指導の強化	交通マナーの向上	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全教育を徹底し、事故0 ・交通指導の実施 ・二重ロックの推奨 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通講話の実施 ・年6回の交通指導 ・交通委員による二重ロック点検の実施 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒は、交通ルールを遵守しており、交通指導が充実していた。 ・後期での交通事故が多かった。生徒の過失ではないが多かったが、継続して交通安全教育の充実が必要である。
人権教育の推進	命を大切にすることを育む指導	命を大切にすることを育む取組の充実	授業、学校行事、特別活動等のあらゆる場面において人権尊重の理念に立った取組を行う。	全教科全領域で「生徒の命を大切にすることを育む指導を行い、自らの存在を肯定的に捉えられるような教育活動を行う。	A	<ul style="list-style-type: none"> 全職員が「人権教育を通じて育てたい資質・能力」の視点に基づいた授業を実践した。人権教育講演会や各年次における人権教育LHR、「きずなの木」作成、生徒交流会などあらゆる場面において、人権や個性を尊重する大切さを学んだ。
		自分の夢や目標を明確に持たせる	キャリア教育の充実を図るとともに、人の役に立つことや他者の価値観を尊重する姿勢を身に付けさせる。	将来の目標の設定、自分の考えの発表などをおして、目標達成のための具体策を考えさせる。単位制面談や個別面談をより充実させる。	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の興味や個性、進路希望などに応じて、計画的に単位制面談や個別面談が実施され、自らの将来を真剣に考える機会となった。また、後期科目選択のために、3年次前期でも単位制面談が実施された。

	職員の人権意識の高揚	・職員研修の充実 ・人権教育の視点に立った指導の実践	校内研修会の計画的な実施を通して人権意識を向上させ、生徒との信頼関係を深める。	校内外の研修の参加を促す。一人一人を大切に、それぞれの能力・適性に合った指導・支援を行う。	B	・校内研修では、北朝鮮による拉致問題や、部落差別問題、第三次とりまとめにもとづく研修を実施した。全職員が人権教育の視点を取り入れた授業を行った。 ・地域の夏期研修や現地研修などに、多くの参加があり、様々な人権問題を考える機会となった。
	生徒の人権意識の高揚	豊かな人権感覚を身に付けた生徒の育成	他者を尊重する意識・意欲・態度を育てる。	LHRを活用した人権教育の充実。生徒会を中心とした生徒間での呼びかけを促す。生徒の活動等を地域へ発信する。	A	・今年度は「自分を大切にし、他者を尊重する」という人権教育目標のもと、人権教育講演会を2度実施した。人権教育アンケートの結果、9割の生徒が自分を大切にし、他者を大切にしていると答えた。 ・人権教育LHRでは、教材を新たに購入した。また、身近な人権問題を扱うなど内容の改定を行った。
いじめの防止等	いじめの早期発見	アンケートによるいじめの早期発見	いじめの実態を把握するとともに迅速・適切な対応につなげる。	1・2年次生は3回、3年次生は2回の生徒・保護者アンケートを実施し、結果を速やかに共有する。	B	アンケート実施後、気になる回答は年次から速やかに報告され、迅速な対応に繋がった。生徒や職員には集会や研修を通して報告し共有できた。
		担任との面談によるいじめの早期発見	教職員の生徒一人一人に対するきめ細やかな観察力の向上。	日頃から生徒に対する声かけを積極的に行い、いじめの早期発見に努める。	B	日頃から生徒の様子を観察し声を掛け、早期に気になる生徒の対応が行えた。また、4月8月に面談時間を設定し、「心と体の振りかえりシート」をもとに担任・副担任が、全員の生徒と面談を行い、相談しやすい環境作りができた。
	「心のきずなを深める」ための取組	「心のきずなを深める月間」における取組の充実	生徒を主体に、いじめ防止について考える機会の確保。	生徒会で「いじめ根絶標語」を募集、掲示し、学校全体でいじめを防ぐ。	B	「いじめ根絶標語」という形ではなく、「自分と他者を大切にしよう。きずなを深めよう」をテーマに生徒1人1人がリング型のカードにメッセージを書き、幹が書かれた広用紙に貼り「きずなの木」を完成させ、各教室に掲示した。この活動はいじめを許さない雰囲気作りに役立った。
		ストレス対処プログラムの充実	困難やストレスに対する心の育成と互いを認め合う人間関係の構築。	年2回、各年次でストレス対処プログラムを実施し、ストレス対処法を考えさせる。	B	ストレスの仕組みや原因、その解消法について学び、相手の気持ちに配慮しながら自己主張する方法について考えた。ストレスの適切な対処へつながるよい機会となった。

地域連携(コミュニティスクールなど)	地域から信頼される学校づくり	地域及び保護者との連携	学校の教育活動全般について情報発信するとともに、保護者・地域社会の理解と協力を得て学校の活性化につなげる。	体育大会、文化祭、マラソン大会等の学校行事を通して、育友会や地域とのより良い協力態勢づくりに努める。	B	各行事で、保護者の積極的な協力が得られた。また、その活動内容を、広報誌やHP等を通じて保護者に発信することができた。次年度に向けて協力保護者の負担についての配慮や活動内容の検討も必要である。
		生徒による地域貢献	地域行事への協力・参加。	八代市のイベントや地域ボランティア活動へ積極的に参加する。	B	多くの生徒が八代市主催のスリーデーマーチや全国花火競技大会等の支援ボランティアへ積極的に参加した。また、吹奏楽部や箏曲部による地域敬老会や福祉施設での演奏会等の実施など大きく貢献できた。
	防災型コミュニティスクールの円滑な運営	熊本地震を教訓に防災教育の充実に学校総体として取り組む	・学校運営協議会において、具体的な取組等の研究を進める・避難所対応マニュアルの周知	・地域と連携した防災教育を検討する ・学校運営協議会の意見を踏まえ、本校の課題を整理する。 ・職員研修等を実施し、避難所対応マニュアルの周知を図る	B	・地域連携した防災教育の取り組みとして、高田地区と防災避難訓練の相互見学を行い、地域との連携を一步進めることができた。 ・学校危機管理マニュアルの一項目であった防災対策の内容を、学校防災マニュアルとして再編成し、作成した。 ・避難所対応マニュアルの周知に至っていないため、学校防災マニュアルと共に次年度周知する。

<p>4 学校関係者評価</p> <p>(1) 学校関係者評価</p> <p>【学校経営】</p> <p>○高大接続改革プロジェクトチームで、卒業後の生徒の姿を考えながら対応しておられるのでよいと思う。安全安心な学校づくりについても、安全管理や災害に関するマニュアルがつけられたり、HPをこまめに更新したりするなど、真摯に取り組まれていると思う。生徒交流会など生徒目線での取り組みもよいと思う。</p> <p>○学校の特色を生かした学校経営がされている。</p> <p>○危機管理の意識が高い。</p> <p>【学力向上】</p> <p>○次項目のキャリア教育との関連もあるが、何のために学習するのかを教師も意識しつつ授業を展開することが大事だと思う。若い先生方も多くおられるので、今後も先生方の積極的な授業改善を期待する。</p> <p>○大学進学率等、進学校としての実績を出してもらいたい。</p> <p>○互いに授業を見学し合う実践など、教師が自己研鑽に励む姿勢が感じられる。</p> <p>【キャリア教育(進路指導)】</p> <p>○プロメ・プランでの発表や展示の活動は、キャリア教育を推進するのに効果的だと思う。一つの活動で劇的に変化をすることは希なことだと思う。現在の取組を一つずつ丁寧に取り組まれている様子がプロメ・プランや文化祭での生徒の様子から感じることができた。</p> <p>○義務教育においてもキャリア教育が重視されている。「将来なりたい自分」に向けての学校総体での取組を行っているところである。是非キャリアパスポートの交流を行いたい。</p> <p>【生徒指導】</p> <p>○なかなか難しい年頃だと思う。シャツ出しや交通指導など細かい指導事項があるのだと思うが、先生方の小まめな指導のおかげで全体的に落ち着いているのだろうと思う。</p> <p>○地域での八代清流高校の評価は良いと思う。</p> <p>○学習会や校区民の手伝いで生徒と会う機会があったが、とても真面目で役割を果たしてくれた。</p>
--

【人権教育の推進】

- 校長先生をはじめ、先生方の2年間に渡る、文部科学省・熊本県教育委員会の研究指定は大変だったと思う。教育の基盤をなす人権教育だと考えている。十分に実践されていると思う。
- 6月の研修で、人権についての取組みを発表されたのを聴いた。職員も生徒も共に人権を尊重する取組みがなされている。

【いじめの防止等】

- いじめはないに越したことはないが、もしもあったときのために、対応策を講じたり、解決しようとしたりする先生方の様子がうかがえる。
- 自己評価が厳しいのではないか。「A」が1・2個あっておかしくない。
- 小学校においては、「心のアンケート」を年3回、教育相談を年3回行っている。子どもとの間に、いかに信頼関係を作るかが要になると思っている。

【地域連携（コミュニティスクールなど）】

- コミュニティスクール等の運営は適切に行われていると思う。校長先生をはじめ、担当の先生方も丁寧に対応していただいている。
- 積極的であると感じている。
- 地域のボランティアで多くの生徒を見かけるようになった。
- 部活動等においてなにか協力できることがないか検討したい。
- 地域への貢献がとてすばらしい。防災マニュアルもすばらしいものが完成し、生きて働くものとなってほしい。

【その他】

- 生徒数の減少は、県内全域の課題だと思う。学校の魅力発信や丁寧な進路指導、学習指導、生活指導等、地域と協力ながら共にならばしていきたい。
- 十分な取組みをされていると思う。生徒を中心に頑張ってもらいたい。
- ほとんどの項目が、自己評価「B」となっているが、控えめではないか。「盛る」のはいかがかと思うが、生徒募集の面においても、自信がある点については強調すべきだと思う。
- 体育大会が順延となり行くことができず、文化祭も行事が重なり行けず、生徒の姿をあまり見ることができず残念だった。授業参観に行く機会をつくってほしい。

(2) 学校評議員会における提言・意見

- 学習指導においては、予習のレベルにおいて、生徒と先生方の意識のズレがあるようだ。
- 生徒面談については、違うクラスの生徒を面談するなどの工夫をしてみたいか。担任には言えないこともあるかもしれない。
- HPを閲覧させるには、ツイッターやフェイスブック等とリンクさせプッシュ型になるよう検討してはいかがか。
- 職員朝会の全体会を週2回として、生徒と向き合う時間を確保する取組みは、是非継続していただきたい。
- 大学入試の形態が変わるので、是非、情報の共有を図っていただきたい。
- 総合的な学習（探究）の時間において、ビジネスに関わる内容があれば、商工会議所として協力していきたいと考えている。

5 総合評価

本年度は「生徒一人一人を大切にしたい育力のある学校づくり」を目指し、「1 Step 1 Up」を合い言葉に、昨年度よりも更に一步工夫して前進することに学校総体として取組んだ。

1 三綱領を根底に据えた生徒の育成

三綱領「自律・進取・錬磨」に基いた教育活動を実施することにより、生徒の自律心（自立心）の高揚を図り、自信に満ち溢れた生徒の育成を目指した。学校評価アンケートの結果を見ると、学校や自分自身に対する肯定感が高い数値を示している。また、高大接続改革プロジェクトチームを中心に、職員研修を6回実施し、本校生の現状把握と教育目標に基づいた「育てたい力」の検討を行った。

【学校評価アンケート】 H29年度→H30年度→R1年度

※数字は「よくあてはまる+ややあてはまる」（以下同じ）

- N02 「本校の教育目標を理解している」
教職員：96%→98%→98% 生徒：71%→71%→68% 保護者：85%→85%→82%
- N03 「本校にはほかの学校にない特色がある」
教職員：93%→98%→90% 生徒：82%→86%→87% 保護者：88%→90%→92%
- N05 「本校の取組が生徒の成長に効果的である」
教職員：90%→94%→76% 生徒：73%→80%→79% 保護者：89%→85%→88%
- N039 「本校に入学してよかった」
生徒：77%→80%→82% 保護者：93%→89%→89%

2 平成31年度の重点的な取組

(1) 授業力の更なる向上

高大接続改革プロジェクトチームを中心に、大学入試制度改革と学習指導要領の改訂を踏まえ、教職員の授業力の更なる向上に取組んだ。「主体的に学び対話で深める」具体的な取組みを職員研修やグループによる授業見学を通じて行った。

【学校評価アンケート】

- N09 「生徒の考えを求める授業をしている」
教職員：89%→92%→88% 生徒：56%→60%→55%
- N010 「授業で生徒の発言や反応を大事にしている」
教職員：94%→100%→100% 生徒：84%→87%→84%
- N011 「授業の内容を考えたりする時間が十分にある」
教職員81%→89%→81% 生徒：76%→80%→77%
- N012 「生徒同士で話し合う機会や意見を発表する機会がある」
教職員：69%→89%→86% 生徒：79%→86%→87%
- N013 「分かりやすい授業をいろいろ工夫している」
教職員92%→92%→97% 生徒：86%→86%→87% 保護者：84%→82%→79%

(2) 自律（自立）できる生徒の育成

生徒自らが目標を設定し、主体的に学習に取り組む態度を育成し、学習習慣を確立するとともに、教職員から指示されるのを待つのではなく、自ら判断し、進んで行動できる生徒の育成を目指した。予習を求めると共に、Sノートを用いて家庭学習状況を把握した。学校行事においては生徒会が中心となって企画・運営し、充実したものとなった。世界ハンドボール大会の学校応援においても、生徒自らが応援方法を工夫し、周囲から高い評価を得ることができた。

【学校評価アンケート】

- N07 「生徒は意欲的に授業に参加している」
教職員：76%→75%→71% 生徒：82%→82%→83%
- N014 「生徒は自主的に学習する習慣ができています」
教職員：21%→23%→21% 生徒：42%→42%→44% 保護者：54%→50%→56%
- N015 「与えられた課題（宿題）をきちんとこなしている」
教職員：75%→70%→78% 生徒：78%→75%→78% 保護者：81%→78%→80%
- N016 「生徒は予習・復習をきちんと行っている」
教職員：19%→36%→31% 生徒：43%→40%→50% 保護者：48%→42%→47%
- N018 「生徒会活動に関心を持っている」
教職員：53%→70%→60% 生徒：30%→37%→29%
- N026 「ボランティア活動に積極的に参加している」
教職員：80%→84%→83% 生徒：45%→47%→47%
- N038 「体育館の集会で自主的に集合できる」
教職員：69%→54%→68% 生徒：87%→88%→87%

(3) 部活動の奨励

文武両道を目指し、活気に満ちた逞しい生徒の育成のために、すべての生徒が部活動へ参加するよう奨励する。特に1年生には、原則全員参加とした。本年度5月1日付けの部活動加入率は、1年次生82.0%（昨年91.4%）、2年次生95.3%（同85.4%）、3年次生83.7%（同88.9%）、全体で86.5%（同88.4%）であった。成果として、アーチェリー部がインターハイに出場した。また、放送部と科学部が全国総合文化祭に出場した。陸上部（男子走り幅跳び）とホッケー部は九州大会に出場した。

【学校評価アンケート】

- N019 「部活動に積極的に取り組んでいる」
教職員：94%→90%→88% 生徒：74%→72%→73% 保護者：80%→77%→75%

(4) 総合的な探究の時間「プロメ・プラン」を活用した進路目標実現

1年次生は広く社会における職業を見つめさせるキャリア教育を推進し、希望する大学等の学部学科を詳細に検討させるとともに、小論文指導においては、思考力や表現力育成を目指した。2年次にはゼミ形式による課題研究を行い、「第14回プロメ・プラン発表会」を開催した。審査員からも「質が高まっている」と大変好評であった。生徒の生きる力の育成につながっていると感じる。3年次では課題研究、小論文、面接指導等を計画的に実施し、大学等の面接や入試の分析を行った。

【学校評価アンケート】

- N035 「将来の進路や生き方について考える機会がある」

教職員：88%→98%→86% 生徒：87%→85%→87%

N036 「進路についての情報提供がある」

保護者：81%→79%→80% 生徒：88%→84%→89%

3 「認め、ほめ、励まし、伸ばす」教育の推進

生徒への観察力を高め、生徒を認め、ほめ、励ますことにより、積極的に活動に取り組もうとする態度の育成を図った。職員が連携して、生徒一人一人に寄り添うことで、生徒の良さを引き出し能力を伸ばすことを目指し、日常の生活や学習、学校行事における生徒の取組みを激励することを職員全体で心掛けた。

【学校評価アンケート】

N018 「生徒会活動に関心を持っている」

教職員：53%→70%→60% 生徒：30%→37%→29%

N026 「ボランティア活動に積極的に参加している」

教職員：80%→84%→83% 生徒：45%→47%→47%

N037 「積極的に学校行事に参加している」

教職員：83%→90%→80% 生徒：84%→82%→81%

4 生徒の心に届く生活指導の徹底と教育相談の充実

生徒が抱えている問題等を早期に発見するとともに、生活環境等の背景や現況把握に努め、スピード感を持った対応ができるように努めた。毎日行っていた職員朝会の全体会を週二回とし、生徒と向き合う時間を確保した。また、定期的かつ効果的に面談を実施するなど生徒への支援体制を整え、生徒の状況把握と情報共有を図った。保護者や専門機関との連携を取りながら、不登校の生徒や支援が必要な生徒に対して適切に対応することができた。

【学校評価アンケート】

N04 「生徒は楽しく登校している」

教職員：99%→100%→95% 生徒：79%→82%→82% 保護者：92%→88%→89%

N022 「いじめや問題行動がなく、明るい学校生活である」

教職員：81%→98%→95% 生徒：88%→89%→90%

N031 「学校のルールを守っている」

教職員：94%→96%→92% 生徒：91%→94%→95% 保護者：95%→95%→96%

N032 「教師は生徒の間違った行動を指導している」

教職員：90%→100%→95% 生徒：86%→85%→89% 保護者：96%→97%→94%

N033 「教師は生徒の悩みや相談に親身に対応している」

教職員：100%→100%→91% 生徒：77%→80%→83% 保護者：93%→92%→93%

N034 「担任の先生以外にも相談できる先生がいる」

保護者：55%→53%→55% 生徒：65%→66%→63%

5 危機管理

職員一人一人の危機管理能力を高めるとともに、生徒の危機回避能力を育成する。防災型コミュニティ・スクールをとおして、地域とともに防災・防犯意識を高めることに努めた。今年度は火元を特定しない火災避難訓練を実施し、職員は緊張感をもって訓練に臨んだ。高田地区長をはじめ、地域から4名の方に参加してもらい、生徒たちに講評を交え地域における取組みを話してもらった。また、学校防災マニュアルを作成することができた。今後、それをいかに周知しながら、より実践的なものとしてくかが課題と言える。安心安全メールについては、権限を分散し、配信できる職員を増やすことで即時配信につなげることができた。

【学校評価アンケート】

N023 「地震や火災時の行動を具体的に教えている」

教職員：96%→100%→95% 生徒：87%→88%→88%

N024 「学校の危険箇所への配慮がなされ、安全である。」

教職員：90%→94%→86% 生徒：78%→80%→79% 保護者：80%→93%→91%

N028 「大雨のとき「安心安全メール」等を見ている」

教職員：86%→96%→95% 生徒74%→76%→80% 保護者：90%→94%→97%

6 保護者及び地域との連携

保護者や地域との連携を図り、協力して文化祭やマラソン大会等の学校行事を実施することができた。11月には、城南地区PTA指導者研究大会を本校で開催した。企画・運営を行うなかで、連携体制が更に強固なものとなった。また、ボランティア活動を奨励し、生徒たちに地域の行事への参加を促したことで、延べ422名が地域のボランティアに参加した。

【学校評価アンケート】

N026「ボランティア活動に積極的に参加している」

教職員：80%→84%→83% 生徒：45%→47%→47%

6 次年度への課題・改善方策

(学校経営)

○学校における情報発信

【学校評価アンケート】No27「学校のホームページをよく見ている」

保護者35% (よく8%)、生徒11% (よく4%)、職員32% (よく15%)

改善策：HP・広報誌等について組織的な取組みを計画的に行うことが必要である。

○進学重視型単位制の魅力発信

【学校評価アンケート】No5「本校の取組みが生徒の成長に効果的である」

職員76% 昨年度→94%

改善策：効果的な教育課程の研究と単位制の強みを職員で共通理解を図り、その魅力を対外的に発信する。

(学力向上)

○職員それぞれの授業力向上

【学校評価アンケート】No7「生徒は意欲的に授業に参加」

生徒83% (よく26%)、職員71% (よく7%)

【学校評価アンケート】No13「わかりやすい授業をいろいろ工夫している」

保護者79% (よく11%)、生徒87% (よく30%)、職員97% (よく33%)

改善策：高大接続改革プロジェクトチームを中心に、学校総体として授業改善に取り組んでいく。「授業→授業評価→教科会→公開(研究)授業→教科会→改善・実践」のPDCAサイクルを積極的に活用する。

○自学自習できる生徒の育成、家庭学習習慣の定着、学習評価の確立

【学校評価アンケート】No14「自主的に学習する習慣」

保護者56% (よく16%)、生徒44% (よく7%)、職員21% (よく0%)

【学校評価アンケート】No16「予習・復習」

保護者47% (よく10%)、生徒50% (10%)、職員31% (0%)

改善策：進路目標を明確にし、Sノートを活用しながら自己管理能力を構築させる。

(進路指導)

○本校キャリア教育の体系化、進学希望の達成

改善策：基礎学力の充実を図ると共に、「総合的な探究の時間」における研究活動の活用、ポートフォリオの作成、個別指導等を充実させ、多様な入試に対応できる力を育成する。AO入試・推薦入試への対策、面談の充実

(生徒指導)

○交通事故の発生防止

改善策：交通委員会を中心にした啓発活動の実施。交通講話等を通じた、更なる交通安全教育の充実を図る

(人権教育)

○人権教育指定校としての取組んだ成果を地域・保護者へ情報発信する。

改善策：HPや広報誌を通じて情報発信を行うことで、生徒の思いを大切にする学校であることへの理解を促し信頼を高める。

(いじめ防止)

○生徒の悩みに対するスピード感のある対応。心のアンケート等への対応力向上

【学校評価アンケート】No22「いじめや問題行動がなく、明るい学校生活である」

生徒90% (よく55%)、職員95% (よく26%)

【学校評価アンケート】No33「教師は生徒の悩みや相談に親身に対応している」

保護者93% (よく45%)、生徒83% (よく34%)、職員91% (よく55%)

改善策：クラスに5名程度、いじめへの取組みに対して肯定的な意見でない生徒が存在している。面談の充実や職員の連携強化、心のアンケート等へのスピード感のある対応をしながら、積極的な認知をしていく必要がある。

(地域連携)

○総合型コミュニティースクールへの移行

改善策：防災型CSでの実践を踏まえて、総合型CSへの移行を図る。機能の相違点を明確にししながら、地域連携がより強固なものとなり、本校の教育活動に厚みを生み出していくものとなるよう取組んでいく必要がある。